

佐々町
町民文化祭
×
交流文化祭
アート
展示会

SAZZA ART

アート 交流会

講師による指導のもと、障がい児・者が中心となり、アート作品作りを通して交流を行いました。

交 流 文化祭

例年開催されている町民文化祭において、アート交流会で作成した作品をはじめ、障がい児・者が作成した様々な作品を展示します。

アート 展示会

アート交流会で作成した作品を、交流文化祭において展示したあと、より多くの人に鑑賞してもらうため、佐々町役場1階のさざホールに引き続き展示します。また、アート作品の作成過程を撮影した写真を掲示します。



交 流 文化祭

令和7年11月1日^土 午前10時～午後5時
2日^日 午前10時～午後4時

会場 佐々町民体育館

アート 展示会

令和7年11月4日^火～令和7年11月14日^金
午前8時30分～午後5時15分 ※土日を除く

会場 佐々町役場 1階 さざホール

観覧料
無料

会場付近
駐車場案内は
こちら



問い合わせ先

佐々町実行委員会事務局(佐々町住民福祉課内)
TEL.0956-62-2101

主催

文化庁/厚生労働省/長崎県/
第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭長崎県実行委員会/
佐々町/佐々町実行委員会

ながさきピース
文化祭2025

第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭
令和7年9月14日^土→11月30日^日

佐々町地域文化発信事業

SAZAKARI

アート 交流会

佐々中学校美術部による作品作り

このアート作品のコンセプトは、自然豊かな佐々川をイメージして作成し、女の子のスカートが清らかな水の流れになるようにしました。

女の子の顔の陰影を表現するところを工夫しました。また、水色を表現するにも、複数の色を混ぜながら深みや、濃淡を表現しました。

美術部のみんなでアイデアを出し合

い、それをひとつの案にまとめ、下書きを完成させるまでは1日で行い、2日目から色を塗り始め、1枚目、2枚目と描いていくごとにスムーズになりました。

アート作品の制作にあたり、限られた時間の中でどう仕上げるかを部員みんなで話し合ったり、アイデアを出し合ったりすることが楽しく、また美術部部員の交流ができ、団結力が高まりました。

イメージ通りの作品に仕上げることができ、大変うれしく思っています。

(佐々中学校美術部)



事業所等によるアート作品作り

つばさ作業所

ペットボトルの蓋を溶かして作る「ペットボトルキャップアート」として、佐々町の花であるさざんかを描きました。



NPO法人みんなのわ いっぱい

いっぱいに参加している子供がデザインしたロゴマークを、ビーズアートが得意な子供が作成しました。



このロゴは、「泣いている顔」と「笑っている顔」が寄り添い、ひとつの輪になっているデザインです。

青と赤という対照的な色を使うことで、「悲しみ」と「喜び」など、さまざまな感情が人の心に存在していることを象徴しています。笑うときもあれば泣いてしまうときもあります。人には色々な気持ちがあって、世界には色々な人がいます。

どんな気持ちも大切にしながら、いっぱい良いんだよという気持ちを込めました。お互いを認め合い、安心できる居場所をつくりたいという理念がこのロゴが表現しています。



佐々町 町民文化祭 × 交流文化祭 アート 展示会

集合形式でのアート作品作り（佐々川の石へのペイント）



10月11日（土）、23日（木）にアート作品づくりを通じた交流会が開催されました。障がいをお持ちの方や佐々中学校美術部など多くの方が参加され、好きなモチーフや石の形に着想を得ながら、思い思いに石へのペイントを行いました。

今回作成した作品は、前のページで紹介した佐々中学校美術部や障害福祉事業所等で作成された作品と組み合わせ、一つの大きなアート作品として町民文化祭×交流文化祭やアート展示会で展示されます。



参加事業所・団体等

エンポート佐々、佐々ひかりステーション、ドリームハウスあさがお、ドリームハウスよつば、MindFactory佐々事業所、エールチルドレン、スマイルさざ、はびなすげんきキッズ、やまびこ学苑佐々校、フリースペースなずな、NPO法人みんなのわ いっぱい、佐々中学校美術部

講師

一般社団法人 日本造園組合連合会
吉福 二三弥 氏、海老沼 和仁 氏、高島 博志 氏

佐々中学校 美術専科 橋本 聖佳 先生



2025